

## 「せとか」の特性について

果樹試験場口之津支場において、(清見×アンコール)×マーコットの交配により育成された。第7回系統適応試験に口之津19号として供試され、平成10年8月21日にタンゴール農林8号として命名登録された。

樹姿はやや開張性で樹勢は中程度である。葉の緑色が深く黒っぽい。結実性は中程度であるが、夏期に乾燥したり着果過多の翌年には極度の不作になることがある。施設栽培では生育が旺盛で、結実も良く豊産性である。果実は150～200gで着果量によってかなり変動する。果形は扁平で安定している。果皮は橙色で厚さが薄く、果面が滑らかで光沢がある。剥皮はやや易で芳香がある。通常無核であるが、周囲に受粉樹があると種子が入る。じょうのうは薄く、肉質はやや弾力があり濃厚な食味である。成熟期は1月下旬～2月頃である。



減酸が比較的早いことから露地栽培も可能であるが、無加温の施設栽培にすると、果実は大果となり、肉質が極めて柔軟多汁となるため、アンコール、マーコットの代替品種としての導入が有望と思われる。

(柑橘育種班 主任研究員 喜多景治)

表1 「せとか」の果実品質 (愛媛果樹試)

分析年月日	一果重 g	果形 指数	果肉 歩合 %	糖度計 示度	クエン 酸含量 g/100ml	甘味比
1996. 2.20	158	126	85.0	12.6	1.14	12.1
1997. 1.21	260	112	82.7	12.2	1.08	11.3
1998. 1.20	199	136	85.1	13.9	1.23	12.2

表2 無加温ハウス栽培の「せとか」の果実品質 (岩城分場)

分析年月日	一果重 g	果肉 歩合 %	糖度計 示度	クエン 酸含量 g/100ml	糖酸比
1998. 2.16 ハウス	199	87	13.4	0.93	14.4
露地	154	84	13.3	1.19	11.2
1998. 3.12 ハウス	215	87	13.8	0.85	16.2
露地	165	85	13.7	0.94	14.6